



東京第13期

五志塾

第三講

2021年3月8日(月)

@大阪・豊中市 社会福祉法人 福祥福祉会

日本一と言える社会福祉介護施設



時代の変化を見据え「自立・自由度の高い福祉で社会に貢献する」

講師 阿久根賢一
社会福祉法人 福祥福祉会 理事長

大阪で医療・介護事業を展開する
豊泉家グループといえば田中成
和会長が本誌でもお馴染みですが、今回
は同事業を運営する社会福祉法人福祥福
祉会の理事長である阿久根賢一氏にご登
場しました。

2017年より現職の阿久根氏はまず
豊泉家グループの現在のビジョンについ
て、2006年から厚労省の掛け声で始
まった「地域包括ケアシステム」という
予防・医療・介護の連携が重要となるテ
マについて「豊泉家のご利用者が住み慣
れた地域で心穏やかに安心して住み続け
られるよう、2030年には地域包括ケ
アシステム豊泉家モデル「C・I・S」
(Community-based all Inclusive care
System)を実現することをビジョンと
している」と語りました。

また豊泉家グループのホームの特徴で
あり、その原点はアメリカにおける現地
法人との共同開発にあるという「アシス
テッドリビングホーム」について、日々
の生活に介護が必要となっても、その人
が「今、できること」を大切にするアシ
スト「自立支援」と、自らが自己決定し、
自らの生活スタイルを共に創り上げてい
くという「選択の自由」、そんな生活を
可能にするのがアシステッドリビング
ホームという大邸宅であると解説してく

れました。それはプライバシーを守ると
同時にコミュニティも大切にしたいとい
う想いから生まれたスタイルであり、ま
た一般的な有料老人ホームとの絶対的な
違いでもあるそうです。

同会の「自立と自由の家」という行動
指針に関しては、どうしても老人ホーム
に入ると制約があったり我慢しなくては
ならなかったりするが、豊泉家ではどん
な状態になろうとも、どんなハンデ
キャップがあったとしても、「自立と自
由の家」を追求し続けるのだと言います。

また、豊泉家では共に働く仲間を同志
という意味を込めて「フェロー」と呼び、
【フェロー第一主義】も掲げられていま
す。「豊泉家全フェロー物心両面のしあ
わせを追求する」ことで、豊泉家の持つ
「付加価値」を高め続け、さらなる成長・
発展を目指しているとのことでした。

最後には阿久根氏の著書「認知症イノ
ベーション」(プレジデント社)の具体
例を紹介し、「私たちは自分たちの勝手
な先入観によって、人の生きるという本
能の部分まで否定するようなことがあつ
てはならないという考えに至ったので
す」と述べ、貴重な講義は終了しました。